

平成23年度(第1回)「国有林モニターアンケート調査結果」の概要について

国有林を開かれた「国民の森林」とするために、国有林モニターにご登録いただいた皆様からご意見やご要望をお聴きするため、アンケート調査を実施しましたのでご紹介します。

いただきましたご意見については、国有林野の管理経営や広報活動の参考として、今後の近畿中国森林管理局の各種取り組みに活かしていきます。ご協力ありがとうございました。

1 調査時期	平成23年8月
2 調査対象者	国有林モニター 70名
3 調査方法	アンケートをモニターに郵送し回答の上返送願った。
4 回収状況	アンケート依頼 70名 アンケートの回答 60名 アンケート回答率 86%
5 モニターの配置状況	管内、各府県ごとに、1～8名。

6 モニターの構成

区分	男性	女性	計
20代	1	2	3
30代	2	11	13
40代	8	12	20
50代	11	8	19
60代上	10	5	15
計	32	38	70

7 アンケート結果と意見(概要)

- (1) 国有林モニターとなる以前から、国有林や森林管理局(森林管理署、森林管理事務所)の存在について、77%の方がご存知でした。
そのうち、森林管理局等の業務内容について、約半数(48%)の方がご存知でした。
- (2) 国有林モニターになられてから、森林管理局等が行っている業務について、90%の方に理解を深めていただきました。
理解が深まった方法として、広報誌(森のひろば)が77%、ホームページが16%、その他としてモニター会議への参加等の意見をいただきました。
- (3) 国有林モニターとなる前後で、森林管理局等が行っている業務についての認識を比較すると、モニターとなる以前は森林整備や森林病虫害等の駆除・予防等が主体であったのに対し、モニターとなった後は自然観察や森林環境教育、森林レクリエーション等の業務への理解が強く見受けられました。
- (4) 国有林モニターとなって、モニターの43%の方が「国有林を身近な存在と感じるようになった」とのご意見をいただき、同時に36%の方が「国有林に関わらず、森林や林業に対する関心が増えた」との回答を得ました。
- (5) モニターの方々の多くは、森林浴(ハイキング)を目的として山(森林)へ行かれています。
山(森林)に行く事ができなかった理由として、約7割は暇がなかったことが挙げられました。また山(森林)に興味がなかった方は全くいませんでした。
- (6) 局広報誌「森のひろば」について関心や注目した記事として、「近畿中国森林管理局重点取組」から業務内容等を理解していただきました。
「准フォレスター研修」では、適切な森林・林業経営を行ううえで人材育成が必要不可欠であること。
全国的に被害が見られる「ナラ枯れ問題」は、野生動物との共生、森林保全の面からも注目を集めていること。
「森林教室や体験学習等のイベント」については、森林環境教育の必要性や身近に国有林があることへの再認識といったモニターの方々からそれぞれ意見をいただきました。
- (7) 広報誌やパンフレット等で分かりにくかった表現や専門用語については、「准フォレスター」、「分収造林」、「ぶり縄」、「木柵工」、「下層植生」などのご意見をいただきました。
また、広報誌等への要望事項として、地方名等へのルビ設定や文字の拡大、広報範囲の拡大等の意見をいただきました。
- (8) 今後の国有林に期待することとして、「災害に強い森林づくり」が全体の22%と最も多く、ついで「地球温暖化防止」(21%)、「森林環境教育」(18%)という結果となりました。